REPORT 4

寺庭婦人の思い —年代別・悩みと期待—

- 24年度宗勢調査では、3176人の寺庭婦人から回答を得られた。その内訳は「寺院出身」が21.3%、「非寺院出身」が73.9%、また、寺庭婦人会の加入率は全国平均で63.5%であった。
- 「現在の悩み」と「宗門に期待すること」についての、世代差が興味深い。

宗制では「寺院、教会、結社に住職、担任、教導と同居する親族で、本宗の教義を信奉し、寺庭婦人台帳に登録された成年女性」を「寺庭婦人」と位置づけている。現代の寺院にとって、寺庭婦人の果たす役割は大きいといえる。

以下では、3176人から寄せられた回答から、「現在の悩み」と「宗門に期待すること」に焦点を当てて分析を試みる。

1．現在の悩みごと

寺庭婦人 年代×現在の悩みごと　クロス集計（表4-①）

Q2 年代 × Q15 いまの悩みごと

	後継者問題	相談・質問に答えられない	人間関係	経済的に不安	自分の時間がない	結婚前のイメージと乖離	特別な目で見られる	特になし
20歳代	4.5%	29.5%	4.5%	22.7%	25.0%	4.5%	11.3%	34.0%
30歳代	12.6%	16.7%	12.2%	30.3%	18.4%	10.5%	8.1%	27.6%
40歳代	16.7%	12.6%	15.6%	28.0%	22.4%	8.2%	8.8%	29.3%
50歳代	19.9%	7.1%	11.0%	29.5%	27.7%	6.6%	6.3%	27.1%
60歳代	20.2%	4.8%	12.1%	25.3%	26.4%	3.2%	5.0%	30.0%
70歳代	20.0%	4.2%	9.8%	23.2%	24.1%	1.9%	4.6%	31.3%
80歳代以上	25.0%	3.4%	8.7%	18.0%	9.3%	1.1%	1.7%	38.9%
全体合計	17.9%	7.7%	11.2%	25.4%	22.9%	5.2%	5.9%	26.6%

※上位８回答のみを抽出　※３つ以内の複数回答　　1位回答　2位回答

現在の悩みについて３つ以内で尋ねたところ、「特になし」が全体平均で29.6%と最も回答割合が高く、次いで「経済的に不安である」26.6%、「自分の時間が持てない」24.0%であった。

「特になし」は、30歳代、50歳代を除いて、各世代でモードであったが、30歳代、50歳代では、「経済的に不安である」の回答割合が最も高かった。「経済的に不安である」は、40歳代でも３割近く、所謂「子育て世代」に経済的不安感が高いことが判る。

「自分の時間が持てない」は、50歳～70歳代に於いて、それぞれ第２位の回答であり、子育て後の悩みであることがうかがえる。

「後継者問題」は年代が高くなるにつれて比率が増加し、50～70歳代で５人に１人（約20％）、80歳代以上では４人に１人（25％）が悩みのひとつとして挙げている。年齢が高くなると、次世代への引き継ぎが大きな課題となっていることがわかる。

また「檀信徒からの相談や質問に答えられない」は20歳代で29.5％と約３割であるが、年代が高くなるにつれて減少し、80歳代以上では3.4％である。同様に20歳代で「寺庭婦人として特別な目で見られる」は11.3％であるが、年齢が高まるほど減少傾向を示している。それらの悩みは経験を積むことにより解消乃至緩和することが推測される。

2. 寺庭婦人の「宗門への期待」

寺庭婦人が宗門に何を求めているのかを年代別に見たのが次に示した表である。

寺庭婦人 年代×宗門に期待すること　クロス集計（表4-②）

	寺庭婦人会の強化・拡充	寺庭夫人対象の研修の充実	寺庭婦人用資料情報の充実	寺庭婦人の福祉共済の充実	相談窓口の充実	その他	特になし
20歳代	3.3%	15.3%	20.3%	10.2%	13.6%	1.7%	35.6%
30歳代	5.2%	11.5%	25.1%	18.3%	7.1%	1.9%	30.9%
40歳代	3.7%	11.3%	22.5%	19.9%	4.8%	1.9%	36.0%
50歳代	4.8%	17.3%	23.5%	23.8%	5.1%	1.6%	23.9%
60歳代	5.7%	16.8%	21.9%	27.2%	3.8%	1.3%	23.2%
70歳代	7.9%	13.7%	20.3%	22.9%	5.1%	1.5%	28.6%
80歳代以上	8.9%	12.0%	13.5%	16.1%	4.2%	2.6%	32.2%
全体合計	6.5%	17.7%	26.4%	27.2%	5.9%	2.0%	32.2%

※２つ以内の複数回答　　1位回答　2位回答

20～40歳代では「寺庭婦人用資料情報の充実」が、50歳以上では「寺庭婦人の福祉共済の充実」が比較的高い比率を示している。

20歳代では、「寺庭婦人対象の研修の充実」15.3％、「相談窓口の充実」13.6％などの数字が高いことが注目されるが、先ほどの「悩みごと」で、「檀信徒からの相談質問に答えられない」の回答割合が高率であったことの反映であろう。

また、60歳代では、「寺庭婦人の福祉共済の充実」がモードとなっており、年金受給が始まる世代での（寺院ではほとんどが国民年金であろう）意識の変化がうかがえる。

コラム 調査余滴①

平成の大合併以後の宗勢調査

いわゆる「平成の大合併」は平成15～17年にピークを迎えたといわれている。前回、宗勢調査が実施された平成16年に全国におよそ3100あった市町村の数は、今回の調査前年の時点で、1750となった（政令指定都市30、市786、町750、村184。平成23年10月、『住民基本台帳要覧』調べ）。

すなわち平成24年の宗勢調査は「大合併」が行われた後の初めての調査となったのである。

調査票では、「あなたの寺院は、次のどの地域にありますか。１つお答え下さい」という設問があり、「大都市」、「中都市」、「小都市」、「町・村」の中から選択することになっている。

これは、それぞれの寺院の立地環境を知る上で大切な指標となるべき筈のものである。

平成16年の調査結果と平成24年のそれとを比較したのが、下の表である。

	平成16年	平成24年	増　減
大　都　市	18.8%	22.2%	3.4%↗
中　都　市	27.8%	27.3%	0.5%↘
小　都　市	20.3%	24.9%	4.6%↗
町　・　村	32.5%	24.9%	7.6%↘

「町・村」の割合がかなり減少し、「大都市」と「小都市」とが増加している。

もちろん、この８年間に、寺院の実際の立地環境がこの数字ほどに変化したり、寺院の移転、新寺建立、廃寺が大規模になされたりといったことは考えられない。大合併は行政の効率化を目的としたものであり、「町・村」が「大都市に組み入れられた」か「小都市に集約された」のであろうことが推測される。

都市の大きさによる地域分けは、宗勢調査の分析にとって、重要な基準となるものであったが、平成の大合併によって、寺院の立地環境が見えにくくなり、特に「町・村」の実態が掴みにくくなってしまったと言えるのではないだろうか。